

No. 1329

東京サミット

問われる先進国の役割

6月27日、東京サミットに出席するジスカルデスタン仏大統領、サッチャー英首相と相次いで羽田に到着。先に来日中のカーター米大統領ら、これで全員が揃い、第一回のランブイエ会議から5回目、アジアでは初めての主要先進国首脳会議が6月28日から東京・元赤坂の迎賓館で始まった。会議に先だち28日朝、首相官邸では大平首相主催の朝食会が行なわれた。

喫煙室で出迎えた大平首相はクラーク・カナダ首相、サッチャー英首相と「新顔が先に集まりましたね」と笑顔で挨拶。アンドレオッチ・イタリア首相、シュミット西独首相。カーター米大統領、ジスカルデスタン仏大統領と全員が揃って写真撮影のあと、大食堂で朝食会。この後、各首脳はサミット会議場の迎賓館に向った。

第一回会議では「一般経済（成長・インフレ・雇用）」を討議。同日午後の第2回会議では「エネルギー」がテーマ。

「エネルギー」で協調行動を打ち出せるかどうか東京サミットの成否のカギとみられていただけに、石油の消費節約、輸入抑制、代替エネルギー開発をめぐる熟のこもった討議を行った。

夜は皇居・豊明殿で東京サミットに出席の各首脳を歓迎して天皇陛下主催の宮中晩さん会が開かれた。七ヶ国もの首脳が会する宮中晩さん会はもちろん始めて、2日目の29日、第3回の会議では石油輸入抑制の目標につき、それぞれの国益を背景にきびしいやりとりが続いた。同日午後「一般経済」「エネルギー」「貿易」「南北問題」「通貨」の5項目を盛り込んだ『東京宣言』を採択。夕方からは日本、米国、西独、英国、フランス、イタリア、カナダの七ヶ国首脳と欧州共同体（EC）委員長が出席して共同記者会見が行なわれた。

各首脳は会議の成果をたたえたあと、一致して世界経済の前進に向けて進む決意を語った。記者会見を終え別れのあいさつを交わす各国首脳たち。各首脳は日本側のもてなしと、首相の議長ぶりに感激と称賛の言葉をおしまなかった。来年はイタリアの「水の都」ベネチアで6回目の会議が開かれる。